

In the 5-minute sequence! a bewildering transformation....

5月23日(土)より
緊急ロードショー

銀座松屋並び (562)
テアトル東京 5301

**5分前は
人間だった!**

その心に怒りを宿したとき
不気味な遠吠えと共に
変身が始まる——

ハウリング



THE HOWLING 洋画 ロードショー

『この作品で一番クレージーだったのはほく自身かも知れない。あばら骨の部分で手を抜いていけば、確実に撮影が1ヶ月は早く終了した筈だから。次の作品では書くこともしたい。メジャー作品に、今は興味がないね。ほくの次なるステップは、メイクアップとCO-ディレクターを兼ねることだ。「ハウリング」でもっと製作費があれば、もっとスコイイの作れたはずさ。今はもう全然あの仕事を自慢する気にはなれない。新しいアイデアを持っているんだ。1年もしたら、それこそ腰を抜かすようなものを見てあげよう。待ってろよ。』(「スターログ」5月号より抜粋)
●ロブ・ポーティン/1959年生まれ。メイクアップ特撮を担当した「ハウリング」公開。

はみ出しハウリング

とてつもなく見やっつけた。あの変身シーン。あれ、模範なんて言え。信じられない。だつて怪獣なんて濡れてるんす。ヨダレまで垂らしちゃって、すごくイライライ目をして、いつかの種族に似てたわ。もうびくびく。かわいいうるふがキル

●スタッフ/キャスト●(製作) マイケル・フィネル/ジャック・コンラッド (監督) ジョー・ダンテ (脚本) ジョン・セイルズ/トレリス・H・ウィングス (特殊メイクアップ) ロブ・ポーティン (音楽) ビノ・ドナジオ (撮影) ジョン・ホラ (美術監督) ロバート・A・バーンス (出演) ディー・ウォーレス (カレン・ホワイト) /パトリック・マクニー (ジョージ・ワグナー博士) /デニス・デュガン (クリス・ハローラン) /ジョン・キャラダイン (アール・ケントン) /スリム・ピケンズ (サム・ニューフィールド) /ペリンダ・パラスキー (テリー・フィッシャー) /クリストファー・ストーン/エリザベス・ブルックス



秘 ノウハウを盗め

★ド肝を抜く変身シーンの仕掛けはこうだ。額や頬が盛り上がるのは、顔のマペットの内側に風船を仕組み、そこに空気を送り込んでいる。爪がみるみる伸びるのは、リモートコントロールの腕のダミーによるものだ。そして、4.5mの巨大な狼が立ち歩くシーンは、ボディスーツのリモートコントロールタイプ、全身マペットのダミー、顔だけのマペットの3種類が使われている。このノウハウを実践すれば、君も狼男になれる。



人気絶頂天才少年

★特殊メイクアップ技師ロブ・ポーティン。モンスター大好き少年だった彼は14才のときから修業を積み、「スター・ウォーズ」のカンティナの酒場に登場するモンスターがデビュー作だ。その後、「ピラニア」「スター・フォッグ」では赤い目の亡霊を自ら演じた。今や彼は引っぱりだこで、次々と注文が舞い込んでいくという。ところが、当の本人はメイクよりも映画そのものの製作に興味を持っているらしい。



奇跡的な変身シーン

★顔が、頬が微動する。グッと盛り上がる。眼球がくぼむ。口が裂け、突出する。下あごがせり出し、牙をむく。獣毛が体をおおい、ついには、尖形の耳が頭を割って生えてくる。これ全て、切り替えなしの長回しショット。全米中をあっといわせたこの映画のハイライトシーンだ。人間が狼そのものに変身する奇跡的なメイクアップ特撮を成し遂げたのは、弱冠22才のロブ・ポーティン。14才から修業を積んでる「ベテラン」だ。



全米で突如トップに

★3月13日の金曜日。ホラームービーにとって縁起のいい日にこの「ハウリング」は全米公開され、封切り1週目に突如、米業界誌「バラエティ」トップに躍り出た。ジャーナリスト向けの試写のときから、凄まじい反響で、全米中で興奮のつばと化していたから、当然といえば当然だ。ホラーブームのハリウッドが次に魅了されるのは狼男といわれているが、この映画はその兆しともいえる最初の「ハウリング」(遠ばえ)だ。



スターなんて不必要

★製作費150万ドル(約3億円)。米映画としては破格の低予算。それでこんな驚くべき映画ができる——。若い製作者たちの大企業ではできない自由な発想がなし得た勝利といえるだろう。そして、製作費の大部分はハイライトの変身シーンにつき込まれた。従って当然「スター主義脱却」。最近のホラームービーの傾向ではあるが、既成概念を覆し、観る者の立場に立ったサービスピ精神は実にうれしいではないか。



若い感性が生み出した

★監督はジョー・ダンテ、32才。製作が延期された「ジョーズ3」「オルカ2」の監督にも予定されていたハリウッド新鋭の一人。フランシス・コッポラ、ボグダノビッチを育てたロジャー・コマン門下生で、「ピラニア」を監督して注目された。この「ハウリング」は「コマン学校」卒業第一作目。この作品は監督をはじめ映画を愛する若いスタッフたちが、手作りで丹念に仕上げた新感覚の恐怖映画だ。



ナウい狼男が主流

★数あるモンスターの中でも恐怖度No.1の狼男。しかもこの「ハウリング」の狼男は実にナウいのだ。満月を見て変身するのではなく、もっとメンタルに感情の起伏によって変身する。そして、何と感染する。狼男に襲われた人間は、「ゾンビ」のように狼人間として魅了、また、人を襲う。こうして等比級数的に狼人間は増えていくのだ。次々に登場する個性的な狼人間。その一斉変身シーンはもう圧倒的。



SFとホラーに注目

★1980年度の米映画界は、総収入の37%がSFとホラーだという。こうしたSF、ホラーブームは今後もまだまだ続きそうだ。そして、今年のホラーの主流は狼男。「フルムーンハイ」ウルフェン「アン・アメリカン・ワーウルフ・イン・ロンドン」など、今年に入って製作されたり、製作が予定されている狼男をテーマにした映画は5本を超えている。そして、この「ハウリング」が先陣を切ってブームに火を付けた。



無数の狼人間の群れ

4 エディから逃げたカレンは村人に捕えられた。彼女を取り囲む村人たち。彼らの表情は次第に歪み、狼に変身していくではないか。村人全てが狼人間だったのだ。クリスが駆けつけた。2人に迫る無数の狼人間の群れ。高鳴る遠ばえ。クリスは銀の弾丸を次々と撃ち込む。2人は九死に一生を得て町に戻った。事の一部始終をレポートするために、カレンはテレビカメラの前に立った。全てが終わったように思えたが……。



眼前で凄まじい変身

3 木洩れ陽の射し込む森に、ほの青い霧が立ち込める。どこからともなく聞こえるテリーを呼ぶ声。テリーはその声に導かれ一軒の小屋の中へ、唸り声と共に彼女は何かかに襲われた。狼だ。診療所に逃げ込んだ彼女に、またしても狼が牙をむく。彼女の死体を発見したカレンの前に、何とエディが現れた。「あなた、死んだはずなのに……」エディの顔は醜く歪み、カレンの眼前でみるみる狼そのものに変身していったのだ。



響き渡るハウリング

2 人里離れた寒村。深く静かな森の中の静けさが破れる。深く静かな森に、狼のハウリング(遠ばえ)が響きわたる。この場所もカレンにとって、決して安眠の場ではないかのよう。一方、彼女の同僚であるテリーとクリスはエディの身辺調査を続けていたが、奇妙なことに狼男の伝説が浮かび上がってきた。ある日、ビルが狼に襲われた。傷は軽かったが、彼の様子はおかしく、動作も粗暴になっていった。胸騒ぎを感じたカレンは、テリーを村に呼び出した。



連続殺人事件が発端

1 美人ニュースキャスターのカレンは、町を騒がせている連続殺人事件の犯人エディに、とあるホテルショップに呼び出された。真暗なムービーボックス。背後から呻き声が迫る。思わず振り返るカレン。次の瞬間、エディは銃声と共に床に倒れた。急を知った警官が発砲したのだった。犯人は射殺されたが、カレンはそのときのショックで精神を病み、悪夢に悩まされていた。そこで彼女は夫のビルと共に療養のため町を離れた。